

0023-06

会場 : 303

時間 : 5月23日 15:15-15:35

## 白山手取川地域

安田理恵、山口隆、青木賢人、日比野剛

白山手取川ジオパーク推進協議会

白山手取川地域は、霊峰白山のもと、白山国立公園や、手取川、日本海など、豊かな自然に恵まれた地域である。クロユリなどの高山植物や山腹に広がる日本有数のブナ林とそこに住む多様な動物など、その自然性の高さが評価され、ユネスコの生物圏保護区にも認定されている。

越前、加賀、美濃などの広い範囲から、初夏にも雪を頂く姿が望まれる白山は、古より「越のしらね」として都人にも知られ、多くの和歌などに詠まれてきた。崇高な山容は神仏の聖地として、また、水の源や航海の目印として人々の信仰を集め、日本三名山の一つに数えられている。また、白山を源とする手取川は、いくつかの支流と合流したのち石川県随一の穀倉地帯となる加賀平野に至って西流し日本海に注ぐ、県内最大の流域を誇る河川である。

地質的には、約3億年前の飛騨変成岩類を基盤として、中生代白亜紀前期の大陸縁辺部に位置した堆積物である手取層群、中生代から新生代の濃飛流紋岩類、グリーンタフと呼ばれる新生代の火山岩類、そして新旧の白山火山噴出物と変化に富んでいる。加えて、手取川の浸食作用により作られた上流部から河口域での地形も多岐に渡る。こうして作られた地形と、暖流が流れ込む日本海などの影響を受けたこの地域は、日本海から白山にかけての狭い範囲内で水の循環を生み出し、世界的にも稀な低緯度の多量積雪地帯となっている。

また、以上のような地質及び地形のうえに成り立つこの地域の人々の暮らしは様々で、白山及び手取川によりもたらされる恵みとともに、災害の歴史なども各地に残る。太古の時代から現在まで、いつの時代においても火山活動や河川などの水の存在は、暮らしへの影響も大きく、有史以来そこに暮らす人々の生活もまた周辺の自然に寄り添ったものとなっている。

このように白山手取川一帯は、水の惑星地球が作った自然、及び自然と人間との共生を、“水の旅（循環）”をキーワードとして体感できる場所である。

白山手取川一帯では、これらの資源を活かした教育・ガイドツアー活動も各地域で行われている。これまでは個々の団体のみでの活動が多かったが、ジオパーク構想のもと協力、連携体制を整えつつある。2010年11月には白山手取川ジオパーク推進協議会を立ち上げ、ジオガイド養成やジオツアーの開催など積極的な展開をすすめ、2011年の日本ジオパーク登録を目指している。